

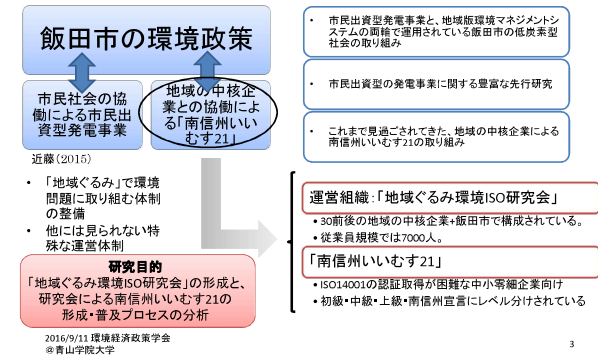
上智大学大学院地球環境学研究科
竹川章博
早稲田大学大学院理工学学院
渡邊敏康

1

可能性とは

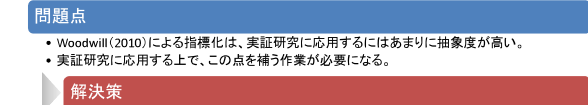
- ・はじめに
- ・先行研究とリサーチエスチョン
- ・ケース選択と分析方法
- ・分析と結果
- ・おわりに
- ・地方都市の持続可能性とは
- ・主要参考文献

- 30前後の地域
- 従業員規模



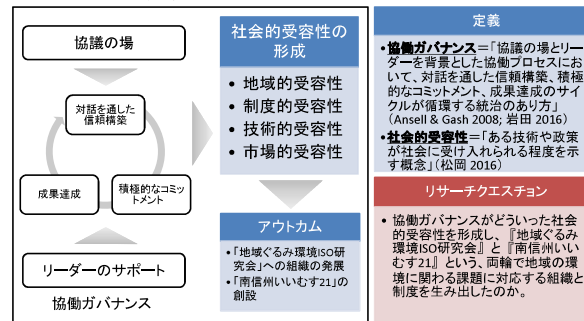
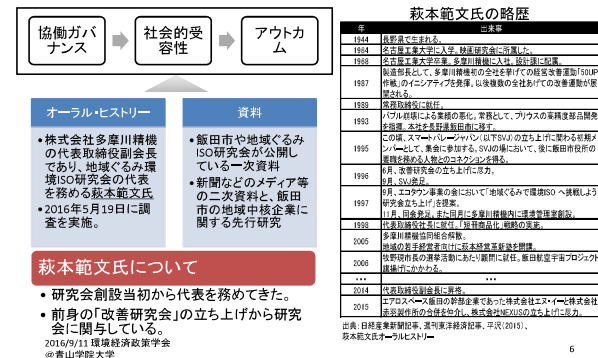
3

Woodwill(2010)による制度の定義と、制度の変化・形成に関する議論



4

社會工作專業化 定義

[illegible]

6

要素/フェーズ	組織名
---------	-----

	組織/チーム	組織の	社会形成性の 形成
組織の場の設計	定期的な食会の開催 マルチアクターの巻き込み		・地場の受容性 ・制度の受容性 ・技術の受容性 ・市場の受容性
活動プロセス	積極的な情報交流 成長達成		
リーダー	多様なアクターにおけるリーダーの有無		
	マルチアクターの巻き込み		

本報告における分析項目: Ansell & Gash (2007)、岩田 (2016) を元で作成

- ・「(1)協議の場、(2)リーダーの双方からのサポートにより、(3)南信州いいむす21の成立のための協働プロセスが機能し、制度イノベーションが生じた」と仮置きする。

- ・「協働プロセス」のなかで形成されるという立場に立ち、地域的受容性・制度的受容性・技術的受容性・市場的受容性の全て、あるいは一部が新たに形成され、アウトカムの創出に結びついたと考える。

7

定期的に事業所見学会を開催

[illegible]

分析結果	
------	--

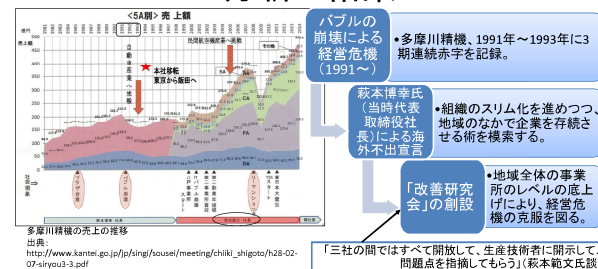
先行研究とは異なるリーダーのサポートや、

- ・飯田市の事例における特色

多摩川精機や萩本節文氏の

- ・協働プロセスの進展にどう影響したのか。
- ・社会的受容性の形成にどう影響したのか。

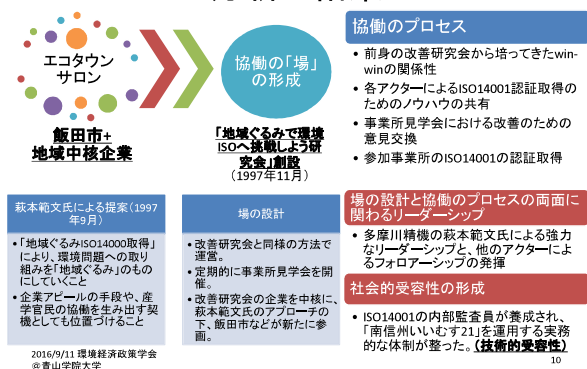
バブルの



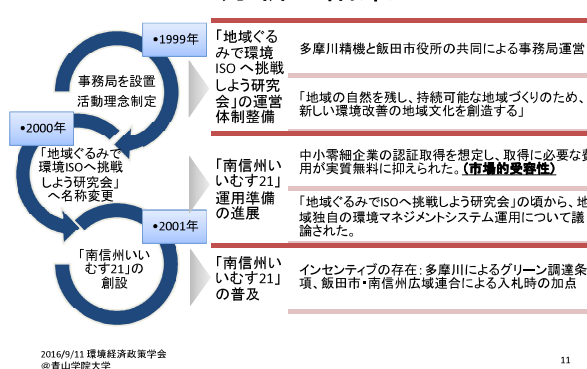
- ・ 萩本範文氏は、当時常務取締役として経営の最前線に立っていた。
- ・ 改善研究会は、ISO9001の認証取得を目指した。相互にノウハウの共有が行われた。研究会参加事業所が認証取得を達成すると、ISO14001の認証取得を模索し始める。

9

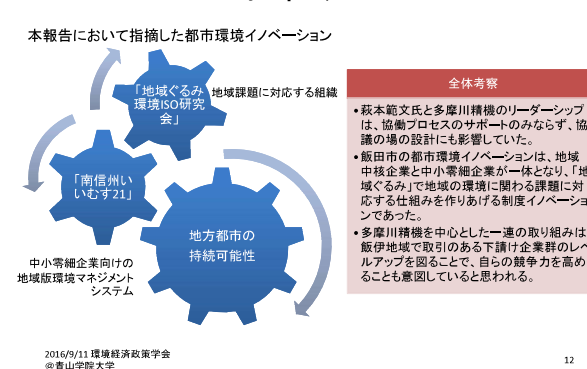
分析と結果



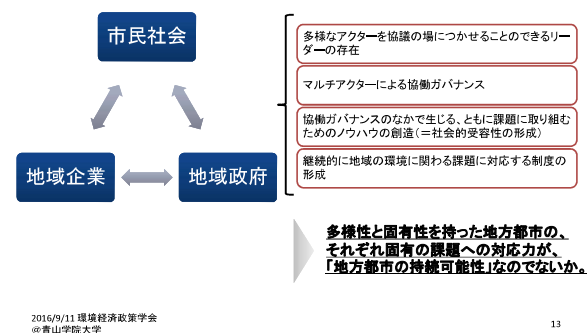
分析と結果



おわりに



地方都市の持続可能性とは



主要参考文献

- Ansell, C., & Gash, A. (2008). Collaborative governance in theory and practice. Journal of public administration research and theory, 18(4), 543-571.
- 岩田優子(2016)「協働ガバナンス・アプローチによるコウノトリ米とトキ米の普及プロセスの比較研究」,環境経済・政策学会・企画セッションBP
- 平沢照雄(2015)「オールヒストリー 地域貢献型企業における経営改革への取り組み：多摩川精機株式会社・萩本範文氏に聞く」『筑波大学経済学論集』(67)107-149
- 近藤明人(2015)「飯田市の温暖化・エネルギー対策」(野村好弘先生追悼号)→(特集 自治体温暖化・エネルギー対策の最前線)『環境法研究』(40)115-138
- 松岡俊二(2016)「都市環境イノベーションと社会的受容性：持続可能な地方都市とは何か？」環境経済・政策学会・企画セッションBP
- Woodhill, J. (2010). Capacities for institutional innovation: a complexity perspective. IDS bulletin, 41(3), 47-59.